

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立吉田方小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8002

E-mail yoshidagata-e@toyohashi.ed.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 454 名 女子 441 名 合計 895 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「地域を知り、親しみ、守る」を活動テーマとして、ESD を未来へつなぐ学びと捉え、ESD の実践を通して地域とともに生きる力の育成を目標とした。

具体的には、「知る」「親しむ」「守る」を柱に、①地域に係わる活動、②環境に係わる教育、③福祉に係わる学習、④防災に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動

1 年生「冬の遊びを楽しもう」では、遊びの体験をするだけでなく、校区のお年寄りから昔の遊びを教わった。2 年生は、年間通して校区探検をすることで地域のよさや自然環境に目を向けることができた。「おもちゃまつりをしよう」では、保育園児と交流する中で、自分のおもちゃの説明をしたり遊ばせてあげたりしながらコミュニケーションをはかり、下学年の子とも親しくなり、地域の人間関係を広げた。地域に関わる活動は、自分たちの生活している地域のよさに気づき、身近な人との関わりを広げていくことができた。

② 環境に係わる教育

4年生の総合的な学習「大好き豊川」では、校区を流れている豊川について、まず流れの様子や生き物について調べる。社会の「水はどこから」の学習とも関連させ、上下水道の出前講座を受けたり、豊川の水質調べをしたりして、豊川の保全や自分の生活に目を向け、自分ができることについて考え、できることを実行していく意識を高めることができた。体験を通して学んだことが今後の生活に生かせるように授業展開をさらに工夫していきたい。

③ 防災に係わる学習

4年生の「大好き豊川」の発展として、防災单元「自分の身は自分で守ろう」の学習も行った。豊川の水害調べをきっかけに校区の防災状況に目を向けた。また、土地が低いと津波の心配もある。避難訓練を近隣の保育園と一緒にいき、屋上に避難する練習もしている。さらに、命にかかわるけがや病気をしたときのために救急車を呼ぶ方法やけがの手当て、心肺蘇生の仕方を学ぶことも体験した。4年生以外でも防災関連の学びができると思われるので、系統立てて学習すると更に効果が高まるだろう。

④ 福祉に係わる学習

5年生「おもしろいあふれる吉田方」では、アイマスクをして歩いたり、高齢者体験をしたり、車いす体験をしたりして、障がいをもつ人の生活ぶりを身をもって知ることができた。思っていた以上に大変なことがわかり、障がいをもつ人の気持ちに寄り添った感想をもつことができた。身の回りに障害をもった人がいたら自分はどうにか関わっていくのかについて真剣に考える姿が印象的だった。できれば、福祉施設の方々や校区の老人会の方々など、外部の方との交流がもてると考えたことが実際に行動となり、空論ではなく生きた活動になると考えられる。



① お手玉ができるようになったよ



② ピンク色だから汚れた水じゃないね



③ 身近なもので手当てができるんだね



④ 高齢者の方の動きにくさがわかるよ

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域)		

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

課題解決型の学習過程を重視したいので、学びに入る前に子どもたちの興味・関心を高めることを意識した。地域の素材から教材開発したり、子どもの生活から課題を見つけたりして、子ども自身が課題を自分事としてとらえ、主体的に追求していけるように単元を構想した。

生活科や総合的な学習のみならず、社会や理科などの教科との関連や、道徳や特別活動も含めて教科横断的な指導計画を立案するように心がけた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育課程および単元構想、記録写真を毎年データ保存し、だれでも、いつでも内容のあらましを理解できるようにしている。また、ゲストティーチャーとして依頼できる方の氏名や連絡先も記録に残すなど、教材準備のヒントを蓄積しておくようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教育課程の見直しをする際に、学習内容や時間数のほか、子どもたちの反応についても振り返った。

成果としては、体験を通して学ぶことで、子どもたちは実感の伴った理解ができた。

課題としては、校外学習のときの安全確保や乗り物を使用した場合の運賃問題と児童数の多さによる弊害があった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は、学んだことを学級内や学年内での情報交換にとどまったが、自分以外の人たちの思いや情報を知ることにより、子どもたち個々の見方や考え方が広がったといえる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

1年生と3年生は、お年寄りとの交流をした。
2年生は、保育園児との交流をした。
4年生は、上下水道局や環境政策課、消防署の方の出前講座を受け、専門的な知識や体験ができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

本年度は、特になし。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

体験活動を取り入れたことで、子どもたちの学習意欲は高まった。また、人とかかわりを入れた学習では、自分以外の人たちのことを思ったり、その人の立場に立って考えたりする活動を通して、相手の気持ちを推し量ることの大切さに気づく子が増えたように感じる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

本年度同様、「地域を知り、親しみ、守る」を活動テーマに、各学年で課題解決学習をすすめていきたい。具体的には、知る、親しむ、守るを柱に、①地域に係わる活動、②環境に係わる教育、③福祉に係わる学習、④防災に係わる学習を行う予定である。

内容的には、本年度と同じであるが、学びの導入を大切にし、子ども自身が自分事として追及していけるように単元の流れや教材を工夫したい。